



校訓
協根自
同性主

☆令和6年度学校教育目標

「友情と信頼で結ばれ、夢実現に向け、佐中プライドを持って、粘り強く考動できる生徒の育成」

☆令和6年度生徒会目標

「躍動」 個性を認め合える、居心地の良い佐中へ

2/28 3年生を送る会

生徒会企画で、晴天に恵まれ、芦北総合グラウンドで実施しました。生徒会からのゲームや3年生からのお返し等で、全員楽しく親睦を深めることができました。「未成年の主張」では、飛び入り参加もあり、和気藹々でそれぞれの思いに共感していました。



2/27 青い鳥のみなさん：読み聞かせ

読み聴かせボランティア「青い鳥」のみなさんによる、今年度最後の活動でした。月1回程度、毎回工夫を凝らして、生徒を絵本（物語）の世界に誘っていただいています。物語の世界に浸れる時間は幸せだと思います。

2/21 2年立志式



授業参観と兼ねて実施しました。生徒はそれぞれ「自らの志」を、漢字一文字に込め、堂々と発表しました。それから、保護者役員さんの協力をいただき、全員で1本の長い長い「恵方巻き」を作り、食べたり持ち帰ったりしました。

第18回星野富弘美術館

「詩画公募展」

今回、文化部から出品し、以下の入賞がありました。力作ばかりでした。おめでとうございます！

★優秀賞 2年 遠原 さん

右は、遠原さんの作品です！

☆美術館賞 2年 楠原 さん

〃 2年 山口 さん

〃 1年 山下 さん



「社会を明るくする運動」応募作文 熊本県知事賞

「心のアンテナ」 芦北町立佐敷中学校 二年 橋本 さん

ある日テレビを見ていると、県内のある高校のサッカー一部でいじめなどがあったというニュースが流れてきた。自分も小さい頃からサッカーをやっていたので、トラブルがあったこと自体が不思議だった。自分のチームは少人数で、先輩や後輩とも仲が良かったので、なぜそんなことになったのか不思議に思い、自分なりに考えてみることにした。

まずは先輩・後輩の上下関係や、人数が関係しているのではないかと考えた。ピッチに立てるのは十一人だけだが、高校にもなると部員も大人数になり、ポジションを奪い合うことになる。その状況のなかで問題が発生し、和気あいあいとした空気になりづらかったのではないだろうか。

また、中学校と違い、高校では県内外含め色々な地域から生徒が集まってくるので、育った環境も経験も異なる部員の集まりのなかで行き違いが生まれ、いじめに発展してしまったとも考えられる。

いろいろと要因を考えていくなかで、ふと、もし自分がその場にいたらどうするだろうか、と考えた。

もし、自分がいじめをする側に誘われたらどうするだろう。しっかりと断って、注意をし、いじめを止めるのが正しいことだとは思ふ。しかし実際は、面と向かって断ったり注意したりすることはできないだろう。愛想笑いでその場をしのぐのが精いっぱいではないか。

逆に、いじめられる側になったらどうだろう。自分の性格から考えると、そんな自分を受け入れたくなくて平気な顔をするだろうと思う。仲間からいじめられている、などと他の人に気づかれたくなくて、むしろ笑顔で気にしていないふりをしてしまう気がする。

また、いじめをする側でもされる側でもなく、その周囲にいていじめに気づいたときはどうするだろう。これについては自分も経験がある。

小学生のころ、男子数人からからかわれた女子が泣きだしてしまったことがあった。そのときは、先に友達が「やめろよ。」と言ってくれたので自分もそれに便乗して注意することができた。しかし、自分が一番に注意する勇気はない。一緒にいる人の中に、きちんと言える人がいなかったら、たぶん自分は見て見ぬふりをしていたと思う。

いじめがあったときに、当事者が誰かに相談したり気づいた人が止めたりと、すぐに正しい行動が取れるのなら簡単な話だが、それはなかなか難しいし、それでいじめが簡単に解決するとも思えない。

やはり一旦起きてしまったいじめをなくすことは、相当に難しいのではないとも思う。「あの人にはこのくらいのことは言ってもいい・してもいい」という雰囲気がたくさんの人に共有されてしまうと、その基準はなかなか元に戻らない。それどころか次第にエスカレートしていくものだ。でも、大勢対一人のいじめに発展する前の、例えば一人二人のいじりくらいの段階なら、自分にも止めることややめさせることができるのではないだろうか。

自分は、人から「空気を読んだり雰囲気をつかんだりするのがうまい」と言われることがある。実際、家族や友達と話していてピリツとした空気を感じたり、話題が良くない方向にいきそうなときに、さりげなく冗談で紛らわせたり話題を変えたりすることはよくやる。それなら、仲間と過ごすなかで、いじめに発展していきそうな言葉や態度に気づくこともできると思う。

まずは、電波をキャッチするアンテナのように、心の感度を高めて、誰かを下に見たり茶化したりする発言や、嫌な思いや恥ずかしい思いをごまかそうとする表情や態度などに気づいていきたい。

これから自分も高校や社会でいろいろな人と関わっていくだろう。相手に勝ちたい、負けたくない、という思いは誰にでもあるものだし、コミュニケーションの不足による行き違いが起こることも、そう珍しいことではないと思う。だから、自分の身の回りで交わされるちょっとした言葉や、周りにいる人の表情、態度にしっかり心のアンテナを広げ、いじめに発展しそうな雰囲気を少しでも感じたら、自分なりに行動していきたい。少なくとも、自分が関わる人に、悲しい思いや辛い思いをする人・させる人がいることを見逃さず、解決に向け行動できる人になりたいと思う。